

平成24年3月

立林春彦 学位論文審査要旨

主 査 萩 野 浩
副主査 西 村 正 子
同 吉 岡 伸 一

主論文

保育園児をもつ父親と母親の育児ストレスと不安の比較

(著者：立林春彦、西村正子、吉岡伸一)

平成24年 米子医学雑誌 63巻 56頁～66頁

学 位 論 文 要 旨

保育園児をもつ父親と母親の育児ストレスと不安の比較

我が国は、急速な少子化と高齢化が同時に進行し、また、社会構造が変化し、多様な生き方を選択・実現し、就労と生活の調和が求められている。このような理想の社会の実現を目指すなかで、育児や家事などに父親が協力するようになりつつある。しかし、父親や家族のなかには、育児は母親が担うものだという意識が依然として残っている。育児への支援を社会全体で取り組んでいくため、母親や父親が育児でどのようなストレスや不安を受けているかを明らかにしていく必要があると考える。そこで、父親と母親の育児ストレスや不安状態を調査した。

方 法

対象は、鳥取県の4施設、島根県の4施設、岡山県の1施設、広島県の1施設の公立保育園に通う児を持つ父親と母親で、2008年4月から2009年4月に調査した。育児ストレス尺度（PSI）と新版STAI状態-特性不安検査（新版STAI）を用い、父親と母親の育児ストレスと不安状態について検討した。

結 果

PSI総得点は、母親が父親に比べて有意に高かった。下位尺度のPSI子ども側面得点は父親と母親間で有意差はみられなかったが、PSI親側面得点は母親が父親に比べて有意に高かった。STAI総得点は、母親が父親に比べて有意に高かった。下位尺度の状態不安は母親が父親に比べて有意に高く、特性不安も母親が父親に比べて有意に高かった。特性不安段階も母親が父親に比べて有意に高かったが、状態不安段階は父親と母親間で有意差がみられなかった。父親、母親ともに、PSI総得点とSTAI総得点の間で、またそれぞれの下位尺度であるPSI子ども側面、PSI親側面、状態不安、特性不安のすべての尺度について、得点間に有意な正の相関関係があった。

父親の尺度総得点と下位尺度得点の属性別の比較では、子どもの性別や数、父親の年齢、職業の有無、勤務先、住まい、地域環境や最終学歴のいずれも有意差はみられなかった。子どもの年齢で、STAI特性不安とSTAI総得点で有意差がみられ、家族構成で、核家族が拡大家族よりもPSI子ども側面得点が有意に高かった。母親の尺度総得点と下位尺度得点の属

性別の比較では、子どもの性別、年齢や数、母親の年齢、職業の有無、住まいや家族構成のいずれも有意差はみられなかった。勤務先で、PSI子ども側面、PSI親側面、PSI総得点、STAI状態不安で有意差がみられ、公務員が最も低かった。また、地域環境ではSTAI特性不安で、最終学歴ではPSI子ども側面で有意差が認められた。

考 察

PSIの親側面ストレスは、母親が父親より高かった。父親の育児参加が十分に得られない中で、母親は、孤立し、生活での規制を受け、育児の困難さを感じていると思われる。父親は、育児は母親がすることという意識があり、また、子どもと接する時間も少なく、ストレスも子どもの外観から受けていることが、母親より育児ストレスが少ない理由と考える。STAIの父親と母親の比較では、下位尺度の状態不安と特性不安と不安尺度総得点のすべてで母親が父親よりも高く、状態不安段階と特性不安段階の比較では、母親が父親よりも特性不安段階が高かった。母親は、仕事と家庭の両立で日常的にストレスを受け、懸念や緊張や悩みなどの不安を父親より強く感じる事が多く、父親よりも状態不安が高かったと考える。また、育児で受けるストレスが日常的で、不安になりやすく、抑うつ感情などに影響し、母親が父親よりも特性不安が高かったと考える。さらに、母親と父親ともに、育児で受けるストレスが蓄積し、不安や抑うつ症状が生じてくるため、育児ストレスと不安との間に正の相関関係があったと考える。

父親と母親のPSIとSTAIを属性別に比較すると、父親は、育児に不慣れで、子どもの成長や発達にうまく順応できないため、子どもの年齢によって状態不安や特性不安に有意な差が生じたと考える。母親は、勤務先の違いで差がみられ、公務員が最も低かったが、経済面で安定していることが育児ストレスを低下させたと考えられる。これからは、育児を一人の母親が担うのではなく、父親が協力し、家族も育児を担い、さらに社会全体で育児を支えていこうとする考え方を共有する必要がある。とりわけ、母親の育児の困難感や不安感を軽減していく必要があると思われる。

結 論

母親は、父親に比べて育児ストレスが高く、不安状態も高いことが明らかになった。また、母親、父親ともに、育児ストレス尺度 (PSI) と不安尺度 (STAI) の下位尺度も含めたすべての尺度間で正の相関関係が認められた。今後、母親の育児ストレスや不安を軽減させるための対策が必要であることが示唆された。